

2024 年 11 月

No.24-110a(全)

## 生化学用検体の保管について

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
 平素は格別のお引き立てを頂き、厚くお礼申し上げます。

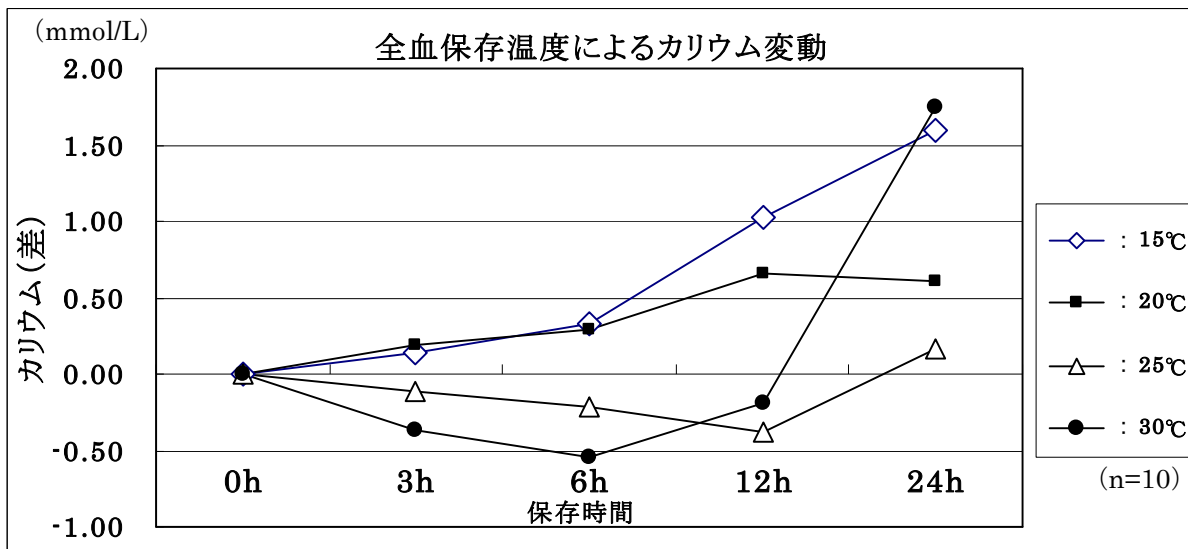
さて、冬季はご提出頂く検体のデータが気温の低下によって影響を受ける場合がございます。特に血液中のカリウムは、下表の様に低温環境において赤血球内のカリウムが溶出しやすくなり、血清中の濃度が高値化して臨床と不一致となることが多々ございます。

つきましては、生化学用汎用容器(分離剤入り容器)に採取された検体を至適温度(18~24℃)にて保管して頂きたくお願い申し上げます。

敬具

### 記

#### ■全血保存温度によるカリウム値への影響 (弊社実験データ)



#### 全血保存温度によるデータ変動

温度 \ 時間	直後	3 時間後	6 時間後	12 時間後	24 時間後
◇15°C	3.98	4.12	4.31	5.01	5.57
■20°C	3.90	4.09	4.19	4.56	4.51
△25°C	3.92	3.81	3.70	3.54	4.08
●30°C	3.94	3.57	3.40	3.75	5.69

以上